

# 地方自治体における複合施設建設に関する研究 -香川県観音寺市への提案-

1110325 篠原永治朗  
指導教員 草柳俊二教授

高知工科大学 工学部 社会システム工学科 建設マネジメント研究室

2000年以降政府の方策として各地方団体合併政策が進められている。各地方自治体は合併特例債を使い公共施設の再建設計画が行われている。その際に地方自治体は住民にとって安全で安心して生活できる施設を作れているのかと考えた。本研究では香川県観音寺市での総合施設計画を例に取り、地方自治体が公共施設建設において、様々な問題に対応できているか、住民が安全で安心して暮らせる町を作ることができる施設案を計画しているか考察した。

*Key Words :Local government , Low birth late and aging population , Synoecisin , Complex facility*

## 1. 背景

### (1) 我が国の現状

現在、我が国で発生している様々な問題の中で、少子高齢化が重要な課題となっている。図1は各地域ごとの老年人口割合推移を示したものである。この図から日本の中でも、四国は全国平均と比べても、高齢化が進んでいるのが分かる。一方、高齢化が深刻化していくことで、高齢者数が増加し、介護施設の需要が年々増加している。また全国の介護老人福祉施設、介護老人保健施設などの介護施設で、施設数と介護施設定員の数も、年々上昇傾向にあるのが図2から分かっている。この中で、介護施設の数が高齢化に伴って増加しているが、高齢者の人数は急激に増加している。図3は都道府県別介護施設平均待機数平均待機数を示したものであり入居待ちの高齢者が多く全国では介護施設の入居待ちの人が多く存在するのが分かる。今後も高齢者数の増加は続くため高齢者が安心安全で生活することができる介護施設の充実が急務となっている。

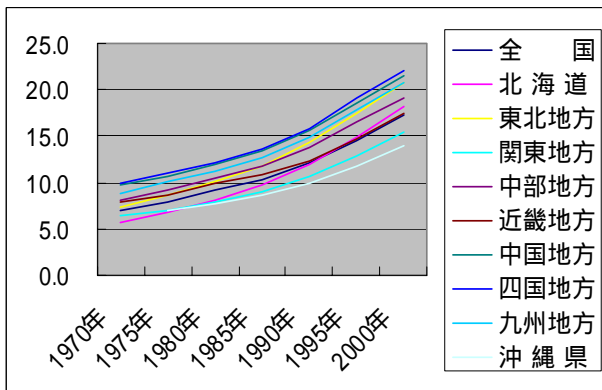


図1-1 老年人口割合推移

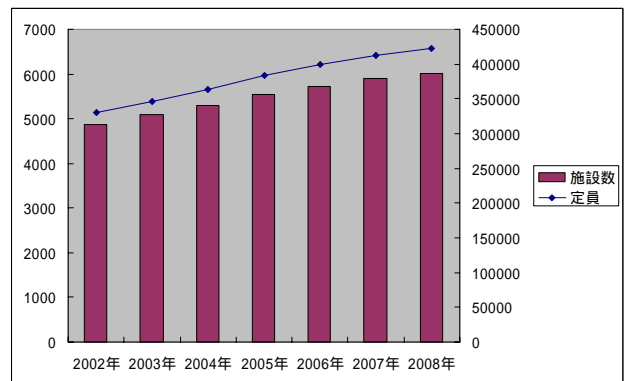


図1-2 介護老人福祉施設、定員数推移

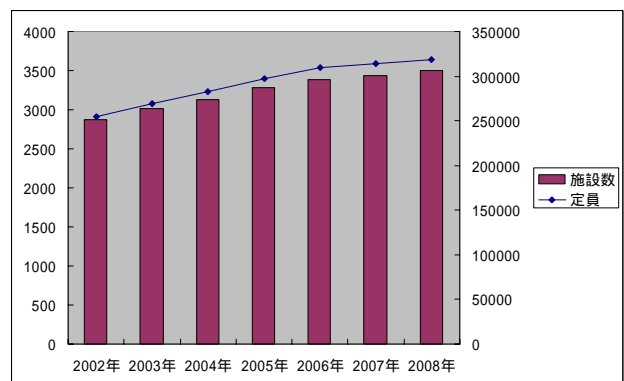


図1-3 介護老人保健施設数、定員数推移

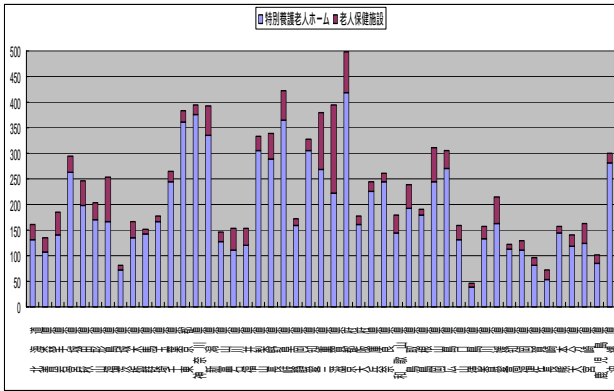


図1-4 都道府県別介護施設平均待機数平均待機数

## (2) 地方自治体の現状

2000年以降、政府の方策として地方自治体の合併が進められている。地方自治体は合併特例債を活用して施設の充実を図っている。合併特例債は、合併後10年間適用される。合併した市町村の建設計画に基づく建設事業の経費の95%が地方債の借入れができる。その元利償還金の70%が普通交付税として交付される。

## (3) 観音寺市の現状

私の地元の観音寺市は、香川県の西部に位置し自然に囲まれた環境の中で生活できる町である。図4は観音寺市の人口割合推移を示したものである。近年観音寺市では少子高齢化が深刻な問題となっており、少子化、高齢化ともに全国平均を上回っており、老年人口の割合は30%を超える状態になっている。

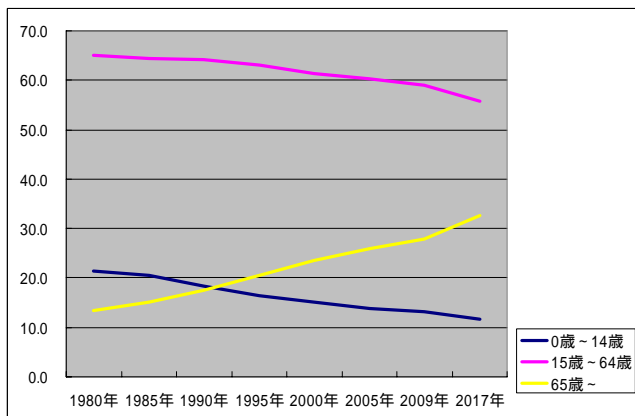


図1-5 観音寺市の人口割合推移

## (4) 観音寺市が進める公共施設再建設計画

深刻化している少子化や建物の耐震性から観音寺市では公共施設の再建設事業が計画されている。

- ・ 市役所、市民会館の移転・建て替え  
老朽化、耐震性による問題から市役所、市民会館を移転し、建て替える。
- ・ 教育施設の移転  
少子化による児童の減少、教育施設の耐震性の問題に対し複数の小学校、幼稚園、保育園を統

廃合し、新たな場所に移転し建て替える。

## (5) 建設場所

市役所 市民会館  
市民会館 観音寺南小学校  
小学校、幼稚園、保育園 倉敷紡績観音寺工場跡地

## 2. 新たな公共施設再建設計画の提案

公共施設を建設する際、1つの問題に対応した施設を計画するのではなく、複数の問題に対して有効な複合施設を計画する。本研究では、観音寺市が計画している複合施設案の有効性を検証し、より安全で安心して生活できる複合施設案を見出す。

### 1) ヒアリング調査

#### 調査目的

我が国では年々高齢者数が増加している。しかし、施設数、介護スタッフの不足が深刻化している。よって、実際に施設に入っている高齢者及び介護スタッフに、ヒアリング調査をすることで、現状の問題点を調査する。

#### 調査内容

- ・ 介護施設利用者に日常生活内容、現状の不満、今後求めていること。
- ・ 介護スタッフには、回転率、仕事内容、現状の問題点の調査。

#### 調査方法

香川県観音寺市の介護施設等

- ・ 特別養護老人ホーム利用者10人
  - ・ 老人介護保険施設利用者30人
  - ・ デイサービスセンター利用者10人
  - ・ 介護スタッフの方5人
- 調査時期：2011年1月

#### ヒアリング内容(施設内での日常)

- ・ 体を動かす練習  
(字を書く、折り紙、塗り絵、編み物)
- ・ 小学校、幼稚園の児童との触れ合い(話、劇)
- ・ 利用者同士の世間話
- ・ 外での散歩

#### 利用者の意見

- ・ 早く元の健康な体に戻りたい。
  - ・ 仕事をしたい。
  - ・ 余生を楽しみたい
  - ・ 生きがい欲しい
  - ・ ゆっくり休みたい。
  - ・ もっと子供と接する時間が欲しい
- #### 介護スタッフの意見
- ・ 人手が足りない。
  - ・ 特に夜間勤務の人員が足りない。
  - ・ 労働時間が長い。
  - ・ 他の施設との繋がりが無い。
  - ・ 綺麗な仕事ではない、給料が安い、きついので3Kが挙げられる。

## ヒアリング結果

ヒアリングをした利用者の大半が体を動かしたり、子供と接したいという意見でした。

高齢者の方は子供と接することでその日が充実した日にすることができ、生きる活力が生まれてくる。介護スタッフに関しては、雇用の問題、人員の問題などが多く挙げられたので、その点の改善が早急に求められるのではないかと考えた。

## 2) 具体的複合施設の案

### (1) 複合施設システムの枠組み

観音寺市では少子化よりも高齢化が深刻な問題である。高齢者の数は今後減少することはない。よって、今を生きている人、これから生まれてくる人たちが、安心安全で利用できる施設案は、現在直面している問題に対し対応していく必要がある。

問題としては大きく4つに分類できる。

- 1、地域自然環境
- 2、高齢化社会
- 3、少子化社会
- 4、労働人口減少

これらの事象は、近年日本で問題になっている。それぞれの問題に対して、適応していく施設は以下に挙げられる。

- 1、地域自然環境を考えた施設
- 2、高齢化社会に対応した施設
- 3、少子化社会に対応した施設
- 4、労働人口減少に対応した施設

これらを総合施設をつなげることにより、各対象利用者のニーズに合わせていく。

## 安全で安心して生活できる複合施設

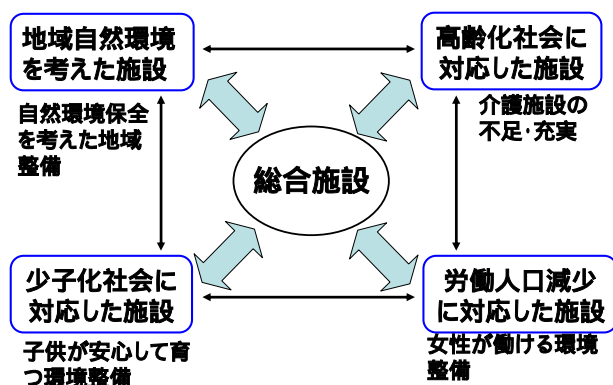


図4-1 総合施設のイメージ図

### (2) 複合施設システムの構築

各問題に対応していける施設の提示を行う。

1. 地域自然環境を考えた施設
  - ・自然を生かした文化財の保全などを進める資館・集会所。

### 2. 高齢化社会に対応した施設

- ・老年人口割合の増加に伴って生じた介護施設の不足を補う介護施設、世代間交流
- ・高齢者の働く場所を目的とした集会所・畑。

### 3. 少子化に対応した施設

- ・近年共働きの増加している。そのような子供が安心して成長することを目的とした保育施設・教育施設。

### 4. 労働人口減少に対応した施設

- ・育児、介護、家庭などから女性が働きやすい環境の不足を解消するための保育施設・理解を持った職場

### (3) 複合施設の建設予定地

複合施設を建設予定地は観音寺市が教育施設、保育施設を移転予定の(A)倉敷紡績観音寺工場跡地とする。しかし、倉敷紡績観音寺工場跡地だけではこれだけの施設を建設するには狭い。

そこで、倉敷紡績観音寺工場跡地の近辺にある(B)土地を使用することにより、利用可能敷地面積を拡大し、土地を有効に使い複合施設のシステムの向上を図る。

(A)と(B)の間には大きな川があるため、歩道橋をかけ高齢者と子供が自由に(A)と(B)の敷地を行き来できるようにする。

また(C)には市民会館が移転予定になっている。

(A)と(C)も歩道橋でつなげることにより、複合施設利用者が安全に(C)に移動可能にする。

・敷地面積

(A)6.1ha (B)5.0ha (C)2.7ha



図4-2 倉敷紡績観音寺工場跡地周辺地図

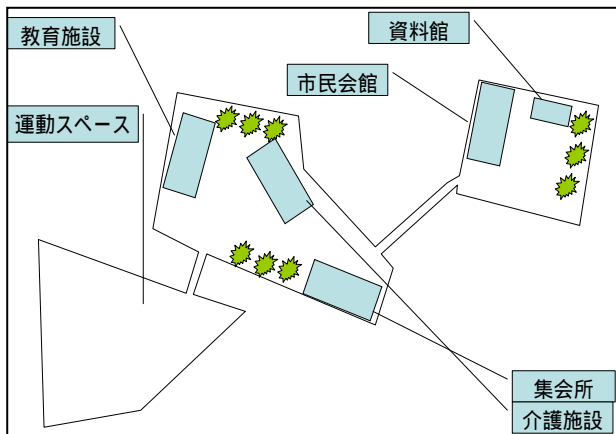
### (4) 複合施設具体案

(A)教育施設、保育施設と観音寺市の従来の計画に加えて高齢者のための介護施設・集会所を導入する。

(B)教育施設、保育施設、介護施設の利用者が運動・散歩をする際に使う運動スペースを導入する。

(C)市民会館が移転し、(A)と連携し、複合施設の利

## 用者の教養をサポートする



運動スペースには、近くの川から敷地内に水を引いたり、木を植えたりして緑を増やして、散歩をすることができる施設のほうが、利用者が安らぎを感じることができるのではないかと考える。

### (5) 複合施設案の有効性

教育施設、保育施設、介護施設を一緒にすることにより相互の利用者の世代間交流、教育施設、保育施設の利用者は介護施設の利用者から昔ながらの伝統を継承することが可能である。

介護施設の利用者は教育施設、保育施設の利用者との触れ合いから、日々の生活に生きがいを得ることができる。ヒアリング調査の結果、高齢者は若者との交流を望み、それに関わる仕事などをしてほしいと語っていた。集会所では様々な知識を持った高齢者が自分の持っている知識を広める講習会なども開くことができる。豊かな自然環境を持つ施設は常に自然や環境のことを考え生活する人材を生み出すことができる。

### (6) 複合施設案の問題点

#### ・複合施設までのアクセス（交通手段）

複数の教育施設の統廃合により、複数の校区から児童が通う。中には通学路が遠い子も存在する。保育園、幼稚園、小学校の行き帰りは保護者の方が最も心配になることである。

#### ・コストの増加

本来の計画より規模の大きい施設を計画しているため従来よりコストは掛かる。合併特例債が適用されるがコストは少ないほうがよい。

#### ・高齢者に対する偏見

複合施設の場合、施設内に学校、資料館、集会所など一般の方たちが出入りすることになる。この中で、一般の方たちの中には、認知症等の高齢者に対する偏見を持っている人も存在してしまうことになれば、大きな問題点となってしまうのではないかと考えている。

## 3. まとめ

観音寺市の公共施設再建設を調査し、各問題に対応する計画案を考察し、新たな建設計画を考えていた。私が提示した複合施設案は自然環境、少子高齢化、労働人口の減少である4つの問題に対応した施設を柱とした複合施設である。その中で高齢者と子供がお互いを支えあうことで、高齢者には楽しい余生を送り、子供には優秀な人材が育つ環境とシステムを提示した。

今後の課題は今回提示した自然環境、少子高齢化、労働人口の減少に適応した施設のさらに具体的システムを考え提案していきたい。

### 参考文献

総務省統計局・政策統括官・統計研修所

<http://www.stat.go.jp/index.htm>

厚生労働省

<http://www.mhlw.go.jp/index.shtml>

Home's 介護

<http://kaigo.homes.co.jp/>

観音寺市役所HP

<http://www.city.kanonji.kagawa.jp/>